



IMZ-RS304/309/316/332

version 3.3.1 リリースノート第 1 版

最終修正日 2006 年 7 月 11 日

Copyright 2006 Sony Corporation

著作権について

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り換えいたします。それ以外の責はご容赦ください。このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

その他については、Copyright ディレクトリの Copyright.pdf を参照ください。

また、その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

なお、本書中で®、™マークは明記しておりません。

本製品に使用されているソフトウェアには、「ソフトウェア使用許諾条件」とは別の条件の適用を受けるソフトウェアが含まれています（かかるソフトウェアは、次の URL において確認できます。以下「適用除外ソフトウェア」といいます）。かかる適用除外ソフトウェアにつきましては、「ソフトウェア使用許諾条件」に従うものではなく、各々個別の条件が適用されます。「ソフトウェア使用許諾条件」にいう「ソフトウェア」からは適用除外ソフトウェアは除外されるものとします。

URL: http://www.sony.co.jp/Products/RSM/RSM_acknowledgements.html

目次

1 RealShot Manager の特徴.....	1
1-1 v3.0 での追加機能.....	1
1-1-1 v3.0.0.....	1
1-1-2 v3.0.1.....	2
1-1-3 v3.1.0.....	2
1-1-4 v3.1.1.....	3
1-1-5 v3.1.2.....	3
1-1-6 v3.2.0.....	3
1-1-7 v3.2.1.....	4
1-1-8 v3.3.0.....	5
1-2 対応プラットフォーム	6
1-2-1 サポートOS	6
1-2-2 動作確認PC	7
1-2-3 RSM Web Gateway、及び、Compression Serverの必要P C スペック	10
1-2-4 動作確認を行ったRSM Web Gatewayのバージョン.....	10
1-2-5 サポートカメラ情報	11
1-2-6 アーカイブ機能でサポートしているソニー製Hybrid Network File Server.....	11
1-3 v3.2.1 の追加機能について	12
1-3-1 『早送り』／『巻戻し』ボタンによる再生速度制御機能	12
1-3-2 カメラが選択された状態での『記録データの検索』画面のオープン機能	12
1-4 v3.3.0 の追加機能について	13
1-4-1 SNT-V704 の動体検知機能のサポート	13
2 注意事項.....	14
3 限定事項.....	39
3-1 既知の限定事項.....	39
3-2 解決された限定事項.....	47
3-2-1 v3.3.0 で解決された限定事項	47
3-2-2 v3.2.1 で解決された限定事項	48
3-2-3 v3.2.0 で解決された限定事項	48
3-2-4 v3.1.3 で解決された限定事項	53
3-2-5 v3.1.2 で解決された限定事項	53
3-2-6 v3.1.1 で解決された限定事項	53
3-2-7 v3.1.0 で解決された限定事項	54
Appendix I. Version 1 からの主な特徴.....	i
Appendix II. Version 2.0 での追加機能	ii
Appendix III. Version 2.1 での追加機能	ii
Appendix IV. Version 2.2 での追加機能	ii
Appendix V. Version 2.3 での追加機能	iii

1 RealShot Manager の特徴

1-1 v3.0 での追加機能

1-1-1 v3.0.0

- アーカイブ機能のサポート
Sony のハイブリッドネットワークファイルサーバーと連携して、記録したファイルのアーカイブが可能になりました。
- ソフトウェアによる動体検知機能のサポート
RealShot Manager 本体による動体検知機能をサポートしました。これにより、夜間などの暗い場所、木の揺れなどの環境ノイズがある場所での動体検知によるアラーム運用の精度が向上しました。
また、動体検知の設定を時間ごとに切り替えるスケジュール機能にも対応しているので、たとえば夜間用の設定と昼間用の設定を自動で切り替えることができます。
- MPEG4 ストリーム対応
従来の Motion JPEG ストリームに加えて、MPEG4 ストリームを対応しました。これにより、変化が少ない場所のモニタリングにおいて、回線使用量を節約することができます。
- カメラからの音声入力モニタリング機能
音声入力をサポートしているカメラからの音声のモニタリング、記録、再生機能をサポートしました。
- 新デバイスのサポート
新たに Sony の SNC-RZ25, SNC-RZ30/2, SNC-DF70 をサポートカメラに追加しました。
- リモートカメラに対する任意の記録フォルダー設定機能サポート
リモートカメラそれぞれに対し、任意に記録フォルダーを指定すること

ができるようになりました。

- 新しい評価モードのサポート
ライセンスがなくても初期起動時から 30 日間フル機能で動作しますが、30 日経過後も機能制限付きの評価モードとして動作するようになりました。
- SNC-DF40 のアラームアクションサポート
SNC-DF40 のアラームに対応したアクションを設定できるようになりました。

1-1-2 v3.0.1

- IPELA ロゴ対応
RealShot Manager インストール時、また起動時に表示されるスプラッシュ画面で IPELA ロゴが表示されるようになりました。

1-1-3 v3.1.0

- SNC-P5 のサポート
ソニー製 IP カメラ SNC-P5 を新たにサポートしました。
- SNT-V704 のサポート
ソニー製ビデオサーバー SNT-V704 を新たにサポートしました。
- Audio out を持つカメラへのリアルタイム音声出力機能
Audio out を持ったカメラに対して、RealShot Manager がインストールされている PC に、接続したマイクから音声を出力することができるようになりました。
- RSM Web Gateway での SNC-P5 サポート
RSM Web Gateway v1.2.0 でソニー製 IP カメラ SNC-P5 を新たにサポートしました。

- RSM Web Gateway での SNT-V704 サポート

RSM Web Gateway v1.2.0 でソニー製ビデオサーバーSNT-V704 を新たにサポートしました。

1-1-4 v3.1.1

- 多言語対応

v3.1.0 は英語版のみのサポートでしたが、日、独、仏、伊、中国簡体字対応を行いました。

- SNC-RZ30 の標準ファームウェアのサポート

従来、RealShot Manager でソニー製ネットワークカメラの SNC-RZ30 を使用する場合には、RealShot Manager 専用の特殊ファームウェア v2.05g が必要でしたが、今バージョンから SNC-RZ30 の標準ファームウェア(v2.12)をサポートしました。

1-1-5 v3.1.2

- Network Surveillance Recorder version1 のサポート

ソニー製セキュリティレコーダーNetwork Surveillance Recorder version1 を新たに RealShot Manager のリモートサーバーとしてサポートしました。

Network Surveillance Recorder version1 をリモートサーバーにしたときの設定については、Network Surveillance Recorder version1 のユーザーガイドを参照してください。

1-1-6 v3.2.0

- 新デバイスのサポート

SNC-RX550 / SNC-CS50 / SNC-RZ50 を、新しくサポートしました。

- カメラの動体／不動体検知機能に対応

SNC-RX550 / CS50 / RZ50 では動体／不動体検知機能を、SNC-P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25 では動体検知機能を用いて、アラーム記録を行うことができます。

- カメラのローカルストレージへの記録機能を用いたアラーム記録機能
カメラにはアラーム発生時にローカルストレージへデータを記録する機能があります。これを用いてアラーム記録が行えるようになりました。この機能を用いると、ネットワーク帯域を節約したり、ネットワーク帯域に影響を受けずに高画質なデータを保存することができます。サポートしているカメラの機種は、次のとおりです。

SNC-RX550 / CS50 / RZ50 / P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25

- Data Overwriting 機能
ユーザーが指定した空き容量を保持するように、随時、データを自動的に削除します。
- System Alert 機能
カメラとの接続が切れたことと、ディスク容量が少なくなったことを、E-mail を用いて通知することができます。

1-1-7 v3.2.1

- 『早送り』／『巻戻し』ボタンによる再生速度制御機能
『早送り』／『巻き戻し』ボタンをクリックする度に、再生速度を変化させることができます。
- カメラが選択された状態での『記録データの検索』画面のオープン機能
カメラが割り当てられたモニターウィンドウを選択した状態で『記録データの検索』画面を開くと、そのカメラのデータが検索された状態となります。
- スペイン語対応
スペイン語表示が行えるようになりました。

1-1-8 v3.3.0

- 新しいカメラをサポート
SNC-CS10 / SNC-CS11 を、新しくサポートしました。
- SNT-V704 の各種機能をサポート
動体検知機能、フィールドモードをサポートしました。また、対応アナログカメラ 2 機種を追加しました。

1-2 対応プラットフォーム

1-2-1 サポート OS

- RSM-Standard, RSM-Controller, RSM-viewer, RSM File Player

Microsoft Windows XP Professional (x64 edition を除く)

Microsoft Windows Server 2003 (x64 edition を除く)

Microsoft Windows 2000 Server

Microsoft Windows 2000 Professional

※Microsoft Windows XP Service Pack2、または、Microsoft Windows Server 2003 Service Pack1 を使用する場合、通信の切断が繰り返されると接続できなくなることがありますが、これはOSの仕様による現象です。詳しくは、下記の Microsoft のホームページを御覧ください。

<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/winxppro/maintain/sp2netwk.mspx>

"Limited number of simultaneous incomplete outbound TCP connection attempts"

※Microsoft Windows XP Service Pack2、または、Microsoft Windows Server 2003 Service Pack1 にインストールした RealShot Manager を、RSM Controller / RSM Viewer / RSM Web Gateway のサーバーとして使用する場合には、サーバー側のファイアウォール設定で RealShot Manager.exe への接続を許可してください。

※Microsoft Windows 2000 Server および Microsoft Windows Server 2003 のようなサーバーOSでは、アプリケーションプログラムよりバックグラウンドプログラムが優先的に処理されるため、RealShot Manager のパフォーマンスが、Microsoft Windows XP を使用する場合より低下することがあります。この場合、OSのチューニングやシステム構成の変更などによって、改善できる可能性があります。

- RSM Web Gateway, RSM Compressor
Microsoft Windows XP Professional (x64 edition を除く)
Microsoft Windows 2000 Server
Microsoft Windows 2000 Professional

1-2-2 動作確認 PC

以下の PC を使用して、正常に動作することを確認しています。

1-2-2-1 IMZ-RS304

- 製品名: Dell Optiplex GX260
CPU: Pentium 4 2.5GHz
Memory: 512MB
HDD: 40GB ATA drive
Network: Intel Pro 1000 MT
- 製品名: FSV-IPM1
CPU: Pentium 4 2.4GHz
Memory: 512MB
HDD: 250GB Hitachi Deskstar HDS722525VLAT80
Network: Intel Pro 1000 MT

1-2-2-2 IMZ-RS309

- 製品名: Dell Optiplex GX260
CPU: Pentium 4 2.5GHz
Memory: 512MB
HDD: 40GB ATA drive
Network: Intel Pro 1000 MT

- 製品名: FSV-IPM1
 CPU: Pentium 4 2.4GHz
 Memory: 512MB
 HDD: 250GB Hitachi Deskstar HDS722525VLAT80
 Network: Intel Pro 1000 MT
- 製品名: Dell Precision450
 CPU: Xeon 2GHz * 2
 Memory: DDR-SDRAM 1GB
 HDD: 146GB Ultra320/m * 3 (Hardware RAID-1)
 Network: インテル PRO 1000MT(10/100/1000)
- 製品名: DELL PE1420 Xeon HT
 CPU: Xeon 2.8GHz * 2
 Memory: DDR2 SDRAM 2GB
 HDD: 320GB(4 * 80GB Ultra320SCSI Hardware RAID-0)
 Network: インテル PRO 1000MT(10/100/1000)

1-2-2-3 IMZ-RS316

- 製品名: Dell Precision450
 CPU: Xeon 2GHz * 2
 Memory: DDR-SDRAM 1GB
 HDD: 146GB Ultra320/m * 3 (Hardware RAID-1)
 Network: インテル PRO 1000MT(10/100/1000)
- 製品名: DELL PE1420 Xeon HT
 CPU: Xeon 2.8GHz * 2
 Memory: DDR2 SDRAM 2GB
 HDD: 320GB(4 * 80GB Ultra320SCSI Hardware RAID-0)
 Network: インテル PRO 1000MT(10/100/1000)

1-2-2-4 IMZ-RS332

- 製品名: Dell PowerEdge2600
CPU: Xeon 2GHz * 2
Memory: DDR-SDRAM 1GB
HDD: 146GB Ultra320/m * 3 (Hardware RAID-5)
Network: インテル PRO 1000XT
- 製品名: DELL PE1420 Xeon HT
CPU: Xeon 2.8GHz * 2
Memory: DDR2 SDRAM 2GB
HDD: 320GB (4 * 80GB Ultra320SCSI Hardware RAID-0)
Network: インテル PRO 1000MT(10/100/1000)

1-2-2-5 CPU

- Intel 以外の CPU には非対応。
- Dual Core には非対応。

1-2-2-6 ビデオカード

1024 × 768 ピクセル (16 / 24 ビットカラー) 以上

1-2-3 RSM Web Gateway、及び、Compression Server の必要PCスペック

CPU:	Intel Pentium4 2.0GHz 相当 <ul style="list-style-type: none">• Intel 以外の CPU には非対応。• Dual Core には非対応。
RAM:	512 MB 以上
HDD:	500 MB 以上の空きスペース
OS:	Microsoft Windows XP Professional (x64 edition を除く) Microsoft Windows 2000 Server Microsoft Windows 2000 Professional
JavaJRE:	v1.4.2-03 (RSM Web Gateway のインストーラーに同梱されています。これ以外のものは使用しないでください。)
(**) Web Browser:	Microsoft Internet Explorer Version 6.0 or later

1-2-4 動作確認を行った RSM Web Gateway のバージョン

Version 1.2.0

1-2-5 サポートカメラ情報

SNC-RX550 (v1.11 以上)
SNC-CS50 (v1.11 以上)
SNC-RZ50 (v1.10 以上)
SNC-P1 (v1.11 以上)
SNC-P5 (v1.11 以上)
SNC-CS10 (v1.00 以上)
SNC-CS11 (v1.00 以上)
SNC-DF40 (v1.11 以上)
SNC-DF70 (v1.11 以上)
SNC-RZ25 (v1.11 以上)
SNC-RZ30 (v2.14 以上)
SNC-RZ30/2 (v3.03 以上)
SNC-Z20 (v1.02 以上)
SNC-CS3 (v1.04 以上)
SNC-VL10N (NTSC/v1.4.10 以上)
SNC-VL10P (PAL/v1.4.2 以上)
SNT-V704 (v2.000 以上)
SNT-V504 (v2.03 以上)
SNT-V501 (v2.06 以上)
SNT-V304 (v2.31 以上)

(いずれもソニー製。)

(カッコ内はファームウェアバージョン情報。「2 注意事項」の96
も参照してください。)

1-2-6 アーカイブ機能でサポートしているソニー製 Hybrid Network File Server

バージョン 1.30


1-3 v3.2.1 の追加機能について

1-3-1 『早送り』／『巻戻し』 ボタンによる再生速度制御機能

再生ツールバーの『早送り』／『巻戻し』 ボタンをクリックする度に、再生速度を変化させることができます。


『早送り』 ボタン

2× → 5× → 10× → 20× → 50× → 100×



『巻戻し』 ボタン

-2× → -5× → -10× → -20× → -50× → -100×



1-3-2 カメラが選択された状態での『記録データの検索』画面のオープン機能

カメラが割り当てられたモニターウィンドウを選択した状態で『記録データの検索』画面を開くと、そのカメラのデータが検索された状態で画面が開きます。モニターウィンドウ間の隙間をクリックするなどして、モニターウィンドウが選択されていない状態で『記録データの検索』画面を開くと、前回の状態で開かれます。

1-4 v3.3.0 の追加機能について

1-4-1 SNT-V704 の動体検知機能のサポート

他のカメラの動体検知機能と同様に、I/Oボックスの動体検知端子から設定画面を開くことができます。

1つのI/Oボックスに1つの動体検知端子が入るため、動体検知を使用したいカメラごとに、I/Oボックスを作る必要があります。この組み合わせでは、同じ名称とIPアドレスを持つ必要があります。このI/Oボックスは、必ず、『設定管理』画面上のカメラアイコンのドラッグ&ドロップによって、作成してください。また、以下の条件をすべて満たす場合は、アップグレード後に、該当するI/Oボックスを削除し、新規に作成し直してください。

- v3.3.0 より前の RealShot Manager から I/Oボックスを引き継いでいる。
- 動体検知機能を使用する。
- カメラの名称と I/Oボックスの名称が異なる。

SNT-V704 にPALのカメラを接続している場合、『設定管理』画面の『解像度』では、最大解像度として『720x480』が表示されますが、これは SNT-V704 の『720x576』に相当します。また、PALの場合、検知エリアの位置がずれる場合がありますので、必ず、検知エリアの設定を行ってから、動体検知を使用してください。

カメラプロパティの『カメラタブ』の『画像』の入力番号を切り替えると、対になっているI/Oボックスの動体検知も、その入力番号用となります。

動体検知を使用する場合はカメラごとにI/Oボックスを作成しますが、そこに含まれる入出力端子は、カメラごとに機能するのではなく、全体で1組となっています。入力端子の場合、その状態は、すべてのI/Oボックスに反映されます。しかし、出力端子の場合は、操作を行ったI/Oボックスにのみ、その出力指示状況が反映されますので、ご注意下さい。例えば、I/OボックスAでOutput 1をONにしても、I/OボックスBのOutput 1はOFFのまま表示されます。

2 注意事項

1. ウィルス対策ソフトウェアが全ファイルスキャンしているときのエラーメッセージ

ウィルス対策ソフトウェアが全ファイルスキャンをしているときにカメラからの映像を記録すると、以下のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名>)) File Port Send: Timeout during Wait"
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名>)) File Port Flush: Couldn't flush <xxxxxxx>bytes to file <記録ファイルのパス名>"
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名>)) File Port Send: Timeout during Wait"
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名>)) File Port Flush: Couldn't flush <xxxxxxx>bytes to file <記録ファイルのパス名>"
- "Error Ring Buffer Add: Had to remove locked data for C7(<カメラ機種名>)"

たくさんのカメラを接続した状態やネットワークトラフィックの問題、低速な記録デバイスの使用、他のアプリケーションの動作により CPU の負荷が高いなどの要因により、カメラから受け取った fps で Disk に記録できない場合に記録されるメッセージです。記録される映像ファイルはコマ落ちしている状態になりますが、再生することは可能です。

この場合には、RealShot Manager でのスケジュール記録の実行時刻とウィルスチェックのソフトウェアの実行時刻が重ならないようにすることで回避することができます。

2. Cleanup 処理しても記録データが残るための最低限必要な記録容量

RealShot Manager には Cleanup 機能という指定された日数以上経っている映像データを削除する機能がありますが、指定する最低単位は日単位になります。つまり、記憶容量を 1 日分以上持っていない場合には、1 日たたずに必ず途中で Disk Full になりますが、その時点で Cleanup 処理を実行して Disk Full を解決しようとするとも 0 日以上経っているデータを削除することになり、結果として Cleanup 処理後は記録データがなくなります。

これを回避するためには、最低でも 1 日分の記録データ以上の記録容量が必要になります。また、最低でも 1 日分の記録データは必ず保管するようにしたい場合には、

最低でも 2 日分の記録データ以上の記憶容量が必要になります。

カメラからの映像を記録するハードディスクは上記のことを考慮して容量を選択してください。

なお、映像の記録データの算出は以下の計算式を基準として計算することができます。

画像 1 枚の容量 * Frame/sec * 時間 * カメラ台数

たとえば、圧縮レベル 5 の VGA サイズの画像を 30fps で 24 時間記録するカメラが 2 台ある場合には、1 日で作成される記録容量は以下のように計算できます。

$30(\text{Kbytes}) * 30(\text{fps}) * (60 * 60 * 24) * 2 = 15.5\text{GByte}$

この数値はあくまでも概算であり、撮影する場所や状況により画像サイズは変化します。

3. ユーザーガイドについて

この RealShot Manager のインストールアーカイブにはユーザーガイドは含まれていません。ユーザーガイドは以下の URL からダウンロードしてください。

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_CS.zip (中国簡体字版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_EN.zip (英語版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_FR.zip (フランス語版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_DE.zip (ドイツ語版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_IT.zip (イタリア語版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_JP.zip (日本語版)

http://www.sony.co.jp/Products/RSM/UserGuides32_SP.zip (スペイン語版)

ダウンロードしたユーザーガイドのアーカイブは RealShot Manager のインストールアーカイブを解凍したフォルダー以下で解凍すると、RealShot Manager のインストール時にユーザーガイドも自動でインストールされます。

なお、RealShot Manager のインストール後にユーザーガイドを取得した場合には、ダウンロードしたユーザーガイドを'RealShot Manager User and Administrator Guide.pdf'という名前で、RealShot Manager のインストールフォルダーに置いてください。

4. RealShot Manager ソフトウェアバージョンについて

1 つのシステム内で複数の RealShot Manager を Server/Client として組み合わせて使用する場合には、上位 3 桁が同じバージョン同士を使用する必要があります。バ

ージョンの 4 桁目は設計内部の管理番号になりますので、これは異なっても構いません。

(正しい組み合わせの例)

RSM Standard v3.0.0.15 & RSM Controller v3.0.0.13

※上位 3 桁が"v3.0.0"と共通しているので、組み合わせとしては正しい。

(間違っている組み合わせの例)

RSM Standard v2.3.1.36 & RSM Controller v3.0.0.15

※上位 3 桁が"v2.3.1"と"v3.0.0"と異なっているので、組み合わせは正しくない。

また、RealShot Manager v2.2 から Server-Client 型構成で使用する場合、セキュリティ機能が強化され、サーバーとの接続時にユーザー認証が行われます。**このため、v2.1 以前のバージョンの RSM API を使用して作成されたアプリケーションは RealShot Manager v2.2 以降のシステムに接続することができませんのでご注意ください。**

5. プログラムアップデート方法 (バージョンアップ時)

まず、インストール開始する前に、RealShot Manager ソフトが現在動いてないことを確認してください。その上で、インストールと同じ手順 (User Guide で説明) でインストールしてください。以下の項目は、そのまま引き継がれます。

- カメラ設定
- レイアウト設定
- スケジュール設定
- 記録映像
- ユーザー情報
- I/O 管理情報
- ログデータ
- アラーム履歴

6. クライアントからサーバーへの接続に Proxy を経由する場合


クライアント(*)からサーバー(**)への接続で Proxy を経由する場合には、Microsoft Windows 標準の Proxy を使用してください。他の Proxy サーバーを使用することはサポートしていません。

(*) RSM Controller/RSM Viewer/RSM API を使用した 3rd Party application

(**) RSM Standard

7. グループに登録されているカメラをグループからはずす場合

グループに登録されているカメラをグループからはずす場合には、『設定管理』ウィンドウの『グループツリー』から該当するカメラにマウスカーソルを置き、マウスの左ボタンを押したままカメラを移動させてください。これで単にグループからはずすことができます。

『グループツリー』からカメラを選択し、『設定管理』ウィンドウの上部バーにある削除ボタンを押した場合、単にカメラがグループからはずれるばかりではなく、カメラ自体が削除されます。

8. カメラ設定のエクスポートについて

カメラ設定のエクスポートでは、ダイナミックマスキング設定情報および記録先情報はエクスポートされません。

9. リモートサーバーへのデバイス設定のインポートについて

リモートサーバーに対してデバイス設定のインポートを行うことはサポートしていません。

10. リモートサーバーの記録画像を再生する場合

リモートサーバーに記録された映像に対して記録検索ウィンドウでサムネイル表示をする場合には、リモートサーバーの記録フォルダーを『ネットワークドライブの割り当て』機能によりあらかじめ割り当てする必要があります。このときの共有名は『Default』にしてください。

なお、RealShot Manager をデフォルトのインストールパスにインストールした場合には、記録フォルダーは

C:\Program Files\Sony\Sony RealShot Manager\Recordings

になります。

11. リモートサーバーの記録データへのコメントについて

リモートサーバーの記録データに対し、コメントをつけることはできません。

12. リモートサーバーに記録したデータの削除について

リモートサーバーの記録データは Cleanup Job で削除することができます。リモートサーバーの記録データを記録データ検索画面からマニュアルで削除することはできません。

13. 音声出力を持つカメラへの音声ファイルの output について

用意した音声ファイルをアラームトリガーや外部制御機能により音声出力を持つカメラの Audio Output に送る場合、ネットワークの回線が細い、ネットワークの負荷が高い等の理由により、音声途切れる場合があります。

14. 音声出力を持つカメラへの Audio output 機能で使用する音声ファイルについて

Audio output 機能で使用する音声ファイルはお客様の方で用意していただくことを想定しています。

サポートしている音声ファイルのフォーマットは G.711 および G.726 の raw data ファイルとなります。WAVE ファイル、MP3 ファイルなど raw data 以外のファイルはサポートしていません。

拡張子は以下のように指定してください(*には任意のファイル名が入ります)。

g.711 64 kbit/s Encoded Files (*.g64)

g.726 40 kbit/s Encoded Files (*.g40)

g.726 32 kbit/s Encoded Files (*.g32)

g.726 24 kbit/s Encoded Files (*.g24)

g.726 16 kbit/s Encoded Files (*.g16)

*.g64(G.711)の場合はモノラル、8bits/sample、サンプリング周波数 8KHz

*.g40(G.726)の場合は 5bits/sample、サンプリング周波数 8KHz

*.g32(G.726)の場合は 4bits/sample、サンプリング周波数 8KHz

*.g24(G.726)の場合は 3bits/sample、サンプリング周波数 8KHz

*.g16(G.726)の場合は 2bits/sample、サンプリング周波数 8KHz

となります。

なお、ファイル名は半角英数字および下記の文字以外は使えません。

' . - * () _

15. スケジュール記録時のカメラの解像度設定について

『スケジュールの編集』ウィンドウで、1 つのカメラに対して時間帯が重なるよう


に複数のスケジュールが設定されている場合、一番解像度の高い設定が使われます。

たとえば、同じ時間帯にアラーム記録とノーマル記録とモニタリングがある時間帯に重なって設定されていて、それぞれ、ノーマル記録が一番高い解像度を設定している場合、アラーム記録もノーマル記録の解像度で記録されます。

16. Cleanup Job 実行のタイミングについて

Cleanup Job は開始時間に Cleanup Job が起動するようになっています。ですから、Cleanup Job の開始時刻と終了時刻が現在時刻をまたぐように設定をしても、即座に起動しません。次の Cleanup Job の開始時刻が来たときに実行されます。

17. Cleanup Job で削除される記録データのコメントについて

Cleanup Job では記録データは削除されますが、その記録データのコメントは削除されません。記録データのコメントを削除したい場合には、『記録データの検索』ウィンドウの上部バーの右にある『記録データとコメントの消去』ボタン  から削除してください。

18. 編集モードでの操作について

レイアウトの『編集モード』ではレイアウトの編集以外の操作は行わないでください。

19. リモートサーバーのカメラについて

リモートサーバーのカメラを常時モニタリングする場合は、マップした状態で使用してください。リモートサーバーのカメラをマップしないでモニターウィンドウにアサインしている場合には、RealShot Manager を再起動すると、モニターウィンドウからアサインがはずれます。

20. 1 台のカメラに直接接続できる RealShot Manager の数

1 台のカメラに接続できる RealShot Manager の数は 1 つです。複数の PC から同じカメラの映像をモニタリング、記録したい場合には、そのカメラに直接接続している RealShot Manager をリモートサーバーとし、必ずこのリモートサーバーを介してモニタリング、記録を行ってください。

21. SNC-P1/SNC-DF40/SNC-DF70 をレイアウトツアーで使用する場合

SNC-P1/SNC-DF40/SNC-DF70 のモニターウィンドウを含んだレイアウトを使用してレイアウトツアーを行う場合、レイアウト切り替え後、SNC-P1 / SNC-DF40 / SNC-DF70 の画像がリアルタイムに更新されるまでに数秒かかります。

22. カメラの IP アドレスやポート番号を変更する場合の注意点

IP アドレスやポート番号を変更したいカメラが音声ボックスや I/O ボックスに割り当てられている場合には、カメラプロパティや設定画面の『カメラ』デバイスでこれらの設定を変更するだけではなく、音声ボックスや I/O ボックスに割り当てられたカメラの IP アドレスやポート番号も合わせて変更する必要があります。

23. Cleanup job の『すべてのファイルを指定する』チェックボックスについて

記録検索ウィンドウで記録データの削除を実行した場合や、記録最中に Windows OS 自身が異常終了した場合などは、データベースから該当記録ファイルのエントリはありませんが、記録データ自体はディスク上に残っています。

Cleanup job の『記録データを削除』タブにて『すべてのファイルを指定する』チェックボックスにチェックを入れた場合には、これらの記録データも Cleanup の対象となります。

24. デバイスの IP address の設定を間違えた場合

デバイスの設定時に IP アドレスやポート番号を間違えて指定しても、エラーにはなりません。指定した IP アドレスやポート番号が間違っている場合には、RealShot Manager がそのデバイスを使用するときに初めてわかります。このとき検知したエラーについては、メイン画面の下部のステータス欄に表示されるとともに、ログファイルに記述されます。

25. Cleanup job スケジュールの『終了時刻』について

スケジュール設定された Cleanup job はスケジュール設定画面で指定した『開始時刻』にスタートしますが、『終了時刻』は参照しません。つまり、Cleanup job 実行中に『終了時刻』に到達しても、Cleanup job は終了しません。

26. Cleanup job の『終了時刻』が次の Cleanup job の『開始時刻』と重なっている場合

スケジュール設定された Cleanup job の『終了時刻』が次の Cleanup job の『開始

時刻』になっている場合、この 2 つの Cleanup job は 1 つの Cleanup job と見なされ、次の Cleanup job は『開始時刻』になっても実行されません。Cleanup job は少なくとも 1 秒以上の間隔を空けて設定してください。

27. 記録データの保存に関する制限事項

RealShot Manager Windows 版はデータベースとして Microsoft の Access を使用していることから、1 テーブルの上限値が 1Gbytes になっています。一方、RealShot Manager では 1 記録イベントが発生するたびに、データベース上は記録データを管理するテーブルが 552 バイトずつ増えていきます。

従って、RealShot Manager で保存可能な記録イベントの数は最大でも、

$$1,000,000,000 / 552 = 1,811,594$$

になります。これは、16 カメラを使用しているシステムの場合、1 台のカメラに対し 1 時間あたりの記録数が 6 回とすると、記録データの保存可能な期間は 786 日分までとなります。

28. データベースの最適化について

Microsoft の Access は必要のなくなったデータを削除してもデータベースから削除した領域を解放しません。また、記録データの検索などデータベースへの問い合わせを実行するたびに、データベースの領域が増えていき、これは自動的に削除されません。よって、RealShot Manager を使用していると、データベースは不必要な領域が肥大化していく傾向があり、データの検索速度に影響を与えることがあります。

これらの不必要な領域は、MS Access ツールなどを用いて、定期的に『最適化』を行ってください。

29. 長時間連続記録をした場合の記録検索時間について

スケジュールにより 24 時間連続記録を行い、記録ファイルの保存期間を 1 ヶ月以上に設定している場合など、長時間連続記録をしていると、記録検索画面から記録ファイルを選択する際にサムネイルの表示に時間がかかる場合があります。

この場合は、スケジュール設定画面にて 1 日に 1 秒間の空白の時間を入れることにより、サムネイルの表示時間は早くなります。つまり、毎日 0:00:00 から次の日の 0:00:00 までスケジュール記録が設定されている場合には、記録時間を 0:00:00 から 23:59:59 とすることにより、この問題を解決することができます。ただし、23:59:59 から 0:00:00 までの間は記録されないので、注意してください。

30. パーシャルアーカイブ状態の記録データに関する注意事項

RealShot Manager の 1 記録データは複数の記録ファイルから構成されています。そのうち、あるファイルはアーカイブされていて、残りのファイルがローカルハードディスク上に残っている状態をパーシャルアーカイブ状態と言います。この状態の記録データに対しては以下の制限があります。

- 再生について

ローカルディスク上に存在している記録ファイルは再生することができます。この場合、指定したローカルディスク上の記録ファイルから記録された順番で再生を行いますが、アーカイブされている記録ファイルに到達したところで再生は終了します。

- 記録検索画面のサムネイル表示について

記録検索画面から記録データをクリックしてサムネイルを表示させた場合、ローカルディスク上に存在している記録ファイルのサムネイルのみ表示されます。つまり、記録データをクリックしてもアーカイブされている部分はサムネイル表示されません。

また、記録ファイル個々をクリックすることによりサムネイルを表示させても、サムネイルは記録データ全体から作成される前提のため、選択した記録ファイルに対応したサムネイルが表示されない場合があります。

- リストアについて

1 つの記録データを構成する記録ファイルのすべてがアーカイブされている場合には、その記録データ自体を指定することにより、アーカイブされている記録ファイルを一度にリストアすることができますが、パーシャルアーカイブ状態の記録データの場合には、アーカイブされている記録ファイルを 1 つ 1 つ指定してリストアする必要があります。

パーシャルアーカイブ状態は以下のどちらかで発生します。

- Cleanup 処理による場合

アーカイブは Cleanup 処理で実行され、ファイルの作成日時が指定した日数を経過した記録ファイルがアーカイブ対象となります。記録データを構成


する複数の記録ファイルのうち、一部がアーカイブ条件に合致し、残りのファイルが条件に合致しない場合、パーシャルアーカイブ状態となります。


- 記録ファイルがすべてアーカイブされている記録データに対し、マニュアルで一部をリストアした場合







1 つの記録データを構成するすべての記録ファイルがアーカイブされている状態から、マニュアルにより、一部のアーカイブされている記録ファイルをリストアした場合、パーシャルアーカイブ状態となります。

パーシャルアーカイブ状態の記録データに対し、正しくサムネイルを表示させる場合、記録データを正しく再生する場合には、記録データを構成するすべての記録ファイルをリストアしてから行ってください。

パーシャルアーカイブ状態の記録データは記録検索画面から確認することができます。アーカイブされている記録データは、以下のように記録データの下に、記録データを構成するすべての記録ファイルのエントリが表示されますが、記録ファイルの

行頭に  がついている記録ファイルはアーカイブされていることを表しており、記

録ファイルの行頭に  がついている記録ファイルはローカルディスク上にあることを示しています。

	103G7F RZ30_2		Schedu...	2005/02/02 23:17:05	2005/02/03 0:36:08	1:19:03	1
			Local	2005/02/02 23:52:14	2005/02/02 23:55:44	0:03:30	1
			Archive	2005/02/02 23:48:43	2005/02/02 23:52:13	0:03:30	1
			Local	2005/02/02 23:45:13	2005/02/02 23:48:43	0:03:30	1
			Archive	2005/02/02 23:41:43	2005/02/02 23:45:13	0:03:30	1

<記録検索画面上に表示されたパーシャルアーカイブされた記録データ>

パーシャルアーカイブ状態の記録データを構成するすべての記録ファイルをリストアするのは次の 2 つの方法があります。パーシャルアーカイブの状況により、簡便な方法を選択してください。

- 記録ファイルのすべてを一旦アーカイブしてから、一度にリストアを行う。
- アーカイブされた記録ファイルの 1 つ 1 つをリストアする

なお、パーシャルアーカイブ状態の時間を極力短くするために、アーカイブしたい記録ファイルは Cleanup 処理で行うアーカイブの実行間隔よりも短い記録時間となるように運用してください。

31. アーカイブの運用について

RealShot Manager のアーカイブ機能は、記録が完了している記録データに対し行うことを前提としています。ですから、24 時間切れ目なく毎日記録しているデータに対してはアーカイブできません。

このような記録データに対し、アーカイブを実行した場合には、記録を停止してください。これにより記録データ全体がアーカイブされるようになります。

32. RealShot Manager の動体検知モジュールを動作させるのに必要な環境について

弊社での動作確認環境では、Intel/Pentium4 2.0GHz の 1 CPU コンピューターにて、デフォルトの設定を用いて、QVGA の画像のカメラ 9 台を 5fps で正常に動作することを確認しています。これを参考にお客様の環境に合わせて使用するコンピューターを選定してください。

33. SNC-RZ25 でパン、チルト、ズームを行うときの注意事項

SNC-RZ25 を使用してパン、チルト、ズームを行う場合は、大まかに移動するときにはパン&チルトツールバーを使用し、微調整を行う場合には、モニター画面上からモニター画面の中心に移動させたい所を<Ctrl>キーを押しながら左クリックをして移動させてください。

34. 音声の遅延について

カメラの音声入力から音声のモニタリングを行う場合、画像に比べて音声は最大 1 秒程度遅れることがあります。

35. 音声のプリアラーム記録について

音声に対してプリアラーム記録することはできません。

36. 複数のネットワークカードを持った PC を RealShot Manager のサーバーとして使う場合

複数のネットワークカードを持った PC を RealShot Manager のサーバーとして使用する場合は、該当 PC に対し、以下のように設定してください。

1. クライアントが使用する共有名はコンピューター名（ホスト名）と異なるものを指定する。
2. Notepad などを使用して、

<Windows のシステムフォルダー>¥system32¥drivers¥etc¥hosts ファイル
に

<RealShot Manager が使用するネットワークカードの IP address> <共有名>
と記述する。たとえば、RealShot Manager で使用したいネットワークカードの IP address が 192.168.0.100、共有名が RSM の場合は、
192.168.0.100 RSM
という 1 行を追加する。

なお、<Windows のシステムフォルダー>は PC の環境により異なります。
WindowsXP が新規で C ドライブにインストールされている場合は、C:¥WINDOWS
が<Windows のシステムフォルダー>になります。

37. 記録先が設定されていないカメラに対し、記録を実行した場合

記録先が設定されていないカメラに対して記録を実行した場合、モニター画面は記録している状態として表示されます。このときは実際には記録が行われていません。
メイン画面の最下部のステータス表示欄にはエラーが表示されています。

38. I ピクチャーの間隔と記録時間に関する注意

MPEG4 モードで記録する場合、記録時間が I ピクチャー間隔よりも短いと記録データが再生できないことがあります。記録時間は I ピクチャー間隔よりも長くなるように設定してください。

39. 名前に'/'を含んだカメラに対しアーカイブを設定する場合

名前に'/'を含んだカメラの記録データをアーカイブすることができません。記録データのアーカイブを行いたいカメラに既に'/'をつけている場合には、違う名前をつか

って新規カメラとして再度登録してください。このとき既に登録していたVを含むカメラのエントリは削除する必要はありません。

40. MPEG4 の記録データの逆再生について

MPEG4 で記録した記録データの逆再生を行う場合には、スムーズな動きになりません。再生開始位置を探す目的で使用してください。

41. SNC-Z20 に対しダイナミックマスキングを設定する場合の注意

SNC-Z20 を使用した場合、指定したマスキングエリアがズーム操作により、ややずれることがあります。また、SNC-Z20 では、ズーム中の描画を停止させることができません。

SNC-Z20 に対しダイナミックマスキングを設定する場合には、マスクしたい場所よりやや大きく設定してください。

42. SNC-RZ30/2 を登録する場合の注意

SNC-RZ30/2 を登録するときには、SNC-RZ30 として登録してください。

43. RSM Compression Server について

RSM Compression Server は、MPEG4 ストリームには対応していません。

44. 動体検知(Motion Detection)の I/O ボックス表示について

ローカル PC の場合、動体検知(Motion Detection)の設定を行うまでは I/O ボックスに動体検知の I/O ボックスが表示されません。

45. MPEG4 のときの No Stream Mode について

MPEG4 では No Stream Mode をサポートしていません。Camera Properties の Picture タブにある Stream Mode のチェックを外すと、モニターしていた画面に NO CONNECTION と表示されます。

46. リモートサーバーの記録データのサムネイル表示について

リモートサーバーの記録データのサムネイル画像を記録データの検索画面で表示させるためには、リモートサーバーの記録先パスをネットワークドライブの割り当てで共有している必要があります。

47. リモートサーバーに追加した新しい記録先に対する"ネットワークドライブの割り当て"

リモートサーバーに新しく記録先を追加した場合には、そのフォルダーをクライアント PC から"ネットワークドライブの割り当て"機能で共有する必要があります。そうしないと、新しい記録先の記録映像のサムネイルをリモートクライアントの記録データ検索画面で表示させることができません。

48. 記録データの検索について

記録データの検索処理時間は、検索条件に合致する記録データが増えるに従って、リニアに増加します。弊社のテスト環境では、Pentium4/2Ghz の CPU を 1 つ搭載した PC を使用して、検索条件に合致する記録データが約 2,000 件ある場合、約 15 秒かかっています。

記録データの検索処理が http のタイムアウトまたは GUI 上でキャンセルされた場合でも、記録データの検索処理の内部モジュールは条件に合致するすべての記録データを抽出するまで処理が続きます。この処理が継続している間は CPU およびメモリが消費されていますので、カメラからの画像が欠落することがあります。

以上の理由から、記録データの検索処理を行う場合には、対象カメラを 1 台に指定したり、検索期間を絞り込むことにより、検索条件に合致する記録ファイルが最大でも 1,000 を超えないように検索条件の絞り込みを行ってください。

49. SNC-P5 のツアーについて

SNC-P5 はツアー機能をサポートしていません。

50. ダイナミックマスキングのマスク領域について

カメラによるパン・チルト機能またはズーム機能を持ったカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。パン・チルトまたはズーム機能を持ったカメラに対するマスク領域は、マスクをかけたい対象物の周り上下左右に画サイズの 10%程度の余裕を持って設定してください。特に SNC-P5 を使用する場合には、注意してください。

また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合には、マスクをかける対象物がモニター画面の中央に来る状態にしてからマスクの設定を行ってください。

51. パン・チルト・ズーム中のマスク領域の移動について

パン・チルト・ズームを行うと、それに応じてマスク領域も移動しますが（ダイナミック・マスキング）、マスク領域の移動がパン・チルト・ズームの動きよりもやや遅れる場合があります。マスク対象領域を確実にマスクする必要がある場合には、カメラ設定画面のダイナミックマスキングタブにて『PTZ 動作中は描画を停止する』チェックボックスにチェックを入れて運用してください。

52. ビデオサーバーに対するライセンス管理上のカメラ台数について

SNT-V704 にはアナログカメラを最大で 4 台接続することができますが、RealShot Manager のライセンス管理上は SNT-V704 に接続されたアナログカメラ 1 台 1 台に対してカメラライセンスが必要です。これは従来の SNT-V304 の場合と同じです。

一方、SNT-V504 もアナログカメラを最大で 4 台接続することができますが、SNT-V504 は接続されたアナログカメラの映像ストリームを個別に取り出すことができませんので、接続されたアナログカメラの台数によらず、RealShot Manager のライセンス管理上は SNT-V504 が 1 台のカメラとみなされます。

53. RealShot Manager で SNT-V704 を使用した場合の制限事項について

RealShot Manager で SNT-V704 を使用する場合、以下の機能はサポートしていません。

- 4 分割 (Quad) 表示
- Color Level 変更
- カメラツアー機能
- パン・チルトツールバーの T/W によるズーム機能
- ダイナミックマスキング機能

ダイナミックマスキングを使用する場合には、Internet Explorer から SNT-V704 に対し、直接設定してください。

- SNT-V704 自身が持つ動体検知機能によるアラーム動作

54. SNT-V704 の入力先を変更した場合

SNT-V704 の入力先を変更した場合には、既に選択されていた入力先の設定が引き継がれます。入力先を変更した場合には、再度設定を見直してください。

55. ダイナミックマスキングが設定されている場合のストリームモードについて

ダイナミックマスキングが設定されている場合、ストリームモードを解除することはできません。ストリームモードを解除する場合には、ダイナミックマスキングの設定を消去してください。なお、その場合には画像に対してはマスクできません。

また、ストリームモードを解除した状態でダイナミックマスキング設定を行うことはできません。

なお、既に JPEG ノンストリームモードでダイナミックマスキングを設定している場合にバージョン 3.1 にアップグレードすると、『カメラ設定』画面では『ストリームモード』が選択されている状態になっています。

56. 複数の RSM Standard が同一カメラをローカルカメラとする場合の弊害

RealShot Manager では複数の RSM Standard が同じカメラを自分のローカルカメラにすることを禁止しています。複数の RSM Standard が 1 つの同じカメラを自分のローカルカメラにした場合、カメラ設定情報が他の RSM Standard によって上書きされたり、マスク領域がはずれたり等、カメラ設定のレーシングが発生します。絶対に行わないでください。

57. ダイナミックマスキング設定画面のモードについて

ダイナミックマスキング設定画面にはプレビューモードと編集モードがあります。既にカメラとの接続が確立している場合には、編集モードでこの画面が起動しますが、カメラとの接続を行っていない状態でこの画面を起動した場合には、プレビューモードで起動します。

この場合にはカメラとの接続確立後に編集モードを選択し、マスク領域を設定してください。

58. ソフトウェアによる動体検知機能使用中にパン・チルト・ズームを行った場合

ソフトウェアによる動体検知機能では検知領域はモニター画面内での位置関係で情報を保持しているため、パン・チルト・ズームを行うと実際に検知したい領域と設定されている領域がずれてしまいます。

パン・チルト・ズームを行った場合には、動体検知領域を再設定してください。

59. クライアント GUI の記録検索画面でリモートサーバーの記録データのサムネイルを表示させる場合

クライアント GUI の記録検索画面で、リモートサーバーの記録データのサムネイルを表示させるためには、リモートサーバーの『記録先』フォルダーが該当クライアント PC から共有できる設定にしておく必要があります。

その際にリモートサーバー側に設定する共有名は、RealShot Manager で設定した『記録先』の名前と同じにしてください。たとえば、RealShot Manager では『記録先』のデフォルト名は "Default" になっていますが、その場合は対応するリモートサーバーの『記録先』フォルダーも "Default" という名前でも共有設定が作られる必要があります。

60. マップカメラの Mount Angle について

RSM Controller/Viewer から見た場合、リモートサーバー側のカメラは実際の物理的なカメラになりますが、それをクライアントローカルにマップした『マップカメラ』はクライアント側のあくまでも『論理的なカメラ』となり、リモートサーバーの物理的なカメラとは異なるカメラとして扱われます。つまり、マップカメラの Mount Angle はリモートカメラの Mount Angle を意味しません。サーバー側から送られてくる画像の状態がマップカメラの Mount Angle ゼロに相当します。

以上のことから、マップカメラの Mount Angle を変更してもリモートカメラの画像にはまったく影響はありませんが、リモートカメラの Mount Angle を変更した場合は、マップカメラの画像もそれに合わせて角度が変わります。

61. カメラの Audio In/Out のレベル調節について

SNC-P1 など Audio In/Out の機能を持つカメラに対して、RealShot Manager から音声のモニタリングを行ったり、音声の出力を行うことができますが、RealShot Manager ではカメラの Audio In/Out のレベル調節機能はありません。

カメラの Audio In/Out のレベル調節を行う場合には、Internet Explorer など直接カメラに接続して、Audio In/Out のレベル調節を行ってください。

62. アーカイブ装置のボリュームの庫外管理について

RealShot Manager でアーカイブ機能を使用する場合、アーカイブしたデータを格納するボリュームの庫外管理機能はサポートしていません。アーカイブ可能な総データのサイズ上限は、アーカイブ装置のライブラリに格納できるボリュームの総容量を

超えることはできません。

63. アーカイブ使用時の映像記録フォーマットについて

アーカイブを使用する場合、映像記録ファイルフォーマットは"Tagged MetaData"フォーマットを選択してください。映像記録ファイルフォーマットは『一般設定』ウィンドウの『一般』タブから設定できます。デフォルト値は"Tagged MetaData"になっています。

64. バージョンダウンインストールについて

RealShot Manager ではバージョンダウンインストールをサポートしていません。つまり、現在お使いの環境を引き継いだまま、現在のバージョンより前のバージョンの RealShot Manager をインストールすることはできません。現在のバージョンよりも前のバージョンの RealShot Manager をインストールする場合には、現在のバージョンを一旦アンインストールして削除する必要があります。

65. ノンストリームモード時の画像取得『間隔』について

ノンストリームモードを使用する場合には、画像取得『間隔』は 1,000 ミリ秒以上に設定してください。画像取得『間隔』はカメラ設定画面の『映像』タブの『間隔』にミリ秒単位で指定することができます。

66. アーカイブジョブリストで"cannot connect to remote host"と表示される場合

アーカイブを実行時のアーカイブジョブリストに"cannot connect to remote host"というエラーメッセージが表示されることがまれにあります。これは Windows の RPC (Remote Procedure Call) のエラーを表しています。この場合、RPC のエラー状態を回復するためには Windows を再起動する必要があります。

67. リモートカメラをクライアントのマップカメラにした場合の制限

リモートカメラの映像をクライアントのディスクに記録する場合には、リモートカメラをクライアントのマップカメラにする必要がありますが、この場合、マニュアル記録に関してのみ、リモートサーバーに記録することができません（スケジュール記録、アラーム記録に関してはマップカメラを作成した場合でもリモートサーバーに記録することができます）。

68. サーバー/クライアント構成でサーバー側の PC の時刻をバックデートした場合

サーバー/クライアント構成にて、サーバー側の PC の時刻をバックデートすると、クライアント GUI からリモート IO ボックスの Output bin の出力制御が利かなくなります。この場合は、サーバー側の RealShot Manager を再起動してください。

69. 『PTZ 最中は描画を停止する』モードで PTZ を行った記録画像のサムネイルについて

ダイナミックマスキングの設定画面で『PTZ 最中は描画を停止する』を指定した場合、記録の最中にパン/チルト/ズーム行くと、パン/チルト/ズーム最中の記録データのサムネイルはオレンジ色で一面が塗りつぶされた状態で表示されます。再生を行った場合には、パン/チルト/ズーム最中はパン/チルト/ズーム動作直前の画像が表示されます。

70. 『アクション設定』画面でプリセットを指定する場合

『アクション設定』画面でアクションとしてプリセットを指定する場合、プリセットの指定方法は『プリセット名』になります。プリセット番号ではありません。

71. 記録処理とクリーンアップ処理が並行して実行されている場合

記録処理とクリーンアップ処理が並行して実行されている場合には、ディスクの I/O の負荷により映像フレームが記録されずに捨てられることがあります。

クリーンアップ処理は記録処理の負荷が軽いときに実行するようにしてください。

72. サーバーカメラとマップカメラを同時にマニュアル記録する場合

Server-Client 型構成において、コントローラー PC からサーバーカメラをマップカメラとして登録しマニュアル記録を実行すると、通常は"MAN REC"と表示されます。しかし、サーバーカメラと同時にマニュアル記録を行った場合、画面上サーバーカメラのマニュアル記録のステータス表示が優先されるため、マップカメラのモニターウィンドウには、"SRV MAN REC"と表示されます。

この場合、実際にマップカメラで記録が行われていることを確認するためには、記録検索画面から該当マップカメラの記録データを参照してください。

73. カメラツアーの仕様について

RealShot Manager ではカメラのアングルで表された各ポジションに対し『停止時

間』、『移動時間』を指定することによりカメラツアーの機能を実現しており、『停止時間』、『移動時間』はミリセカンド単位で指定するようになっています。一方、実際のカメラの Pan, Tilt 速度は、レベル 1 の速度、レベル 2 の速度というように、段階別に指定するようになっています。これにより、RealShot Manager の GUI から各ポジション間の『移動時間』をミリセカンド単位で指定していても、必ずしも指定した通りの『移動時間』では動作が行われないことになります。たとえば、ポジション A からポジション B に対して 25,000msec で移動するように GUI から指定し、それをカメラの Pan, Tilt 速度に換算するとレベル 1 とレベル 2 の間の値であった場合は、速度が速い方のレベル、すなわちレベル 2 が選択されます。その場合には、目的のポジションに想定よりも速く到達することになりますが、目的のポジションに早く到達した場合は、早く到達した分だけ長く停止することにより、『移動時間』、『停止時間』のトータルでは、指定した時間を保つようになっています。

74. カメラツアーの『移動時間』、『停止時間』に指定できる値の上限値について

カメラツアー設定画面の『移動時間』、『停止時間』に指定できる値の上限値は 32,767 になります。これよりも長い時間で動作させたい場合には、移動するポジション間に新たにポジションを設けることにより、実現することができます。つまり、ポジション A からポジション B への移動を 32,768msec 以上の時間で移動させたい場合には、ポジション A とポジション B の間に適切な個数のポジションを新たに定義し、それぞれのポジションの停止時間は 1msec を指定することにより、ポジション A からポジション B まで 32,767msec 以上の時間で移動させることができます。その場合、追加した各ポジション間の移動時間は 32,767msec 以下になるようにしてください。

75. カメラツアーに設定された『移動時間』がカメラの物理的限界速度を超えている場合

カメラツアーに設定されたポジション間の『移動時間』が、カメラの物理的稼働限界値を超える場合には、そのポジションへの移動をスキップし、次のポジションへの移動を行います。つまり、ポジション A からポジション B への移動が指定した時間内に完了することができないと判断した場合には、ポジション B への移動をスキップします。

76. カメラのローカルストレージへの記録におけるアラーム記録データ量の制限

SNC-P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25 / CS10 / CS11 の内部メモリーをカメラのローカルストレージとして用いて、RealShot Manager でアラーム記録を行う場合、一日

のアラーム記録データ量が約90MB以上になると、RealShot Managerにて記録できないことがあります。そのような場合には、RealShot Manager 単独のアラーム記録機能をお使い下さい。

77. カメラのローカルストレージへの記録を用いたアラーム記録機能使用時のカメラの外部記録メディアの取り扱いについて

カメラの外部記録メディアのデータを手動で削除しないで下さい。カメラの外部記録メディアのデータは、カメラ自身の上書き機能により自動的に削除されます。

削除してしまった場合、もしくは、外部記録メディアに問題があって、フォーマットしたり交換したりした場合は、下記の手順を行ってください。

1. RealShot Manager を終了させる。
2. 下記のファイルを削除する。
＜インストールフォルダー＞¥SNCR recordings¥＜カメラ - ID 名＞¥Restore.dat
3. RealShot Manager を起動させる。

78. カメラの動体／不動体検知機能の設定画面

カメラの動体／不動体検知機能に関する設定画面では、画像はカメラの設置角度設定0°の向きとなります。

79. Data Overwriting 機能について

Data Overwriting 機能は、下記の容量を空けようとします。

ユーザーによる指定容量

+ 記録データの1ファイルサイズ * 2 * 記録中のカメラ数

空き容量は、

『ユーザーによる指定容量』

～『ユーザーによる指定容量

+ 記録データの1ファイルサイズ * 2 * 記録中のカメラ数』

の間を変動します。

ユーザーによる指定容量を『MB』単位で行う場合は、32767MBまで設定できます。

これを越える容量を指定したい場合には、『%』単位を使用してください。

32カメラ同時記録など負荷が高い場合には、各種パラメータの調整をして、正常に記録できることを確認してから運用してください。記録ファイルサイズは、PCの各

種性能に依存しますが、10 MB 以下で動作を確認しています。

80. Data Overwriting 機能とアーカイブ機能について

これらは、同時に使用することはできません。

81. Cleanup 機能のサイズ指定における最大値

『MB』単位で行う場合は、32767MB まで設定できます。これを越える容量を指定したい場合には、『%』単位を使用してください。

82. 日本語版 Windows PC で動作している RSM Web Gateway への接続について

日本語版 Windows PC で動作している RSM Web Gateway に、英語版 Windows PC から接続すると、Web ブラウザ上で文字化けが発生します。日本語版 Windows PC で動作している RSM Web Gateway に対しては、日本語版 Windows PC から接続してください。

83. SNC-P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25 に対するアラーム記録、スケジュール記録時とモニタリング時のカメラ設定が異なる場合について

SNC-P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25 に対し、アラーム記録、及び、スケジュール記録のカメラ設定が、モニタリング時のカメラ設定と異なる場合、記録開始時と記録終了時に画像の更新が数秒間停止します。

84. RealShot Manager 単体によるプリアラーム記録時間の最大値

RealShot Manager 単体によるプリアラーム記録時間の最大値は、以下の両方の制限を受けます。

- 総フレーム数： 1500 フレーム
- データサイズ： 10 MB

85. 記録データのエクスポート機能について

この機能は、お使いの PC にインストールされているコーデックを用いて処理されています。もし、エクスポート結果が正常に再生されない場合、別の PC で再生させたり、別のコーデックを選んだりしてみてください。

86. カメラの時刻設定について

RealShot Manager は、必要に応じて、カメラの時刻設定を RealShot Manager が動作している P C の時刻で上書きします。

87. SNC-Z20 に対し動体検知（レコーダー）を用いる場合の注意

SNC-Z20 では、ズーム中に、動体検知（レコーダー）を停止させることはできません。

88. ホットスポットにおける複数アラーム発生時の表示時間について

ホットスポットにおける、複数アラーム発生時の一つ当りの表示時間とは、同時に有効であり続けるアラーム間を切り替える時間です。つまり、複数のアラームが有効な状態である場合に、この表示時間で切り替わっていきます。パルス状のアラームの場合は、アラームが発生するたびに表示が切り替わります。

89. 不動体検知の検知時間について

SNC-RX550 / SNC-CS50 / SNC-RZ50 の不動体検知設定メニューにおいて、『検知時間』の項目は、カレントポジション、及び、各プリセットポジションごとに存在しますが、これは設定作業を容易にするためです。設定としては全体で1つだけです。

90. 初回アーカイブ時の注意

初回アーカイブ時に数千のアーカイブ対象データファイルが存在する場合、アーカイブ処理の負荷が非常に高くなり、数十分から数時間の間、画面の更新などが行われなくなることがあります。

91. カメラへのユーザー名、パスワードの変更について

カメラへのアクセスのためのユーザー名、または、パスワードの変更を行う場合は、そのカメラの他の設定変更を、同時に行わないようにしてください。先に、ユーザー名、または、パスワードの『Apply』を行い、その後、必要な他の変更を行ってください。

92. アーカイブが使用されているリモートサーバーへ RSM Controller を接続する場合の注意

アーカイブ機能が使用されているリモートサーバーへ RSM Controller を接続して

使用する場合、記録データ数が多いと、記録データのリストが正常に表示されないことがあります。この場合は、リモートサーバーの受信タイムアウト時間を大きくしてください。この時間は、「設定管理」で、以下の場所にあります。

該当するリモートサーバーのプロパティの「一般設定」タブ
→「ポート」の右側の矢印
→「ポートのプロパティ」の「TCP/IP」タブ
→「受信タイムアウト」

93. 動体検知端子設定時の注意

I / Oボックスの動体検知端子の設定では、Enable/Disable の切り替えと動体検知の設定は、別々に『Apply』してください。

94. ツアー機能設定時の注意

ツアー機能において移動時間を長く設定すると、カメラとの通信が、タイムアウトで切れてしまうことがあります。この場合は、そのカメラの受信タイムアウト時間を、移動時間より長く設定してください。

95. RealShot Manager v3.3.0 によるアップグレード時の、SNT-V704 の I / Oボックスに関する注意

RealShot Manager v3.3.0 でアップグレードする場合、SNT-V704 の I / Oボックスに関して、以下の条件をすべて満たす場合は、アップグレード後に、該当する I / Oボックスを削除し、新規に作成し直してください。

- v3.3.0 より前の RealShot Manager から I / Oボックスを引き継いでいる。
- 動体検知機能を使用する。
- カメラの名称と I / Oボックスの名称が異なる。

96. SNC-RX550 / CS50 / RZ50 の使用における注意

SNC-RX550 / CS50 / RZ50 にて、I / Oの入力端子を使用したい場合、または、画像の配信を No Stream Mode で行いたい場合は、以下のファームウェアを用いてください。

SNC-RX550 : v1.11 以上の予定

SNC-CS50 : v1.11 以上の予定

SNC-RZ50 : v1.10 以上の予定

97. 長期間継続記録におけるレコード分割処理について

長期間継続して記録を行っている場合（毎日 00:00-24:00 の記録を長期間行うような場合）、その記録レコードの構成ファイル数が 10000 を超えることがあります。この場合、その記録レコードは分割され、以降のデータは新しいレコードとして記録されます。このファイル数『10,000』とは、その記録開始からの全ファイル数であり、Cleanup や Data Overwriting によって削除されたファイル数も含まれます。

分割される期間は、フレームレートや解像度に影響を受けます。以下に例を示します。

- 条件

Codec :	JPEG
解像度 :	VGA
フレームレート :	10 fps
画像品質 :	50 %
1 ファイルのサイズ :	50 MB

- 分割までの期間

約 19 日

長期間連続的に記録する場合でも、スケジュールにて一日に一回 1 秒の隙間を空けて、分割されることをお勧めします。

3 限定事項

3-1 既知の限定事項

[No.3-34] クライアント側でレイアウトの自動切り替え機能を長期間実行すると、クライアントが異常終了する可能性があるという問題

サーバー／クライアント構成で、クライアント側でレイアウトの自動切り替え機能を長期にわたって実行すると、クライアントにて、処理が重くなったり、異常終了したりする可能性があります。

レイアウトの自動切り替え機能を使用する場合は、約1週間に一度、クライアント側の RealShot Manager を再起動させてください。サーバー側の RealShot Manager を再起動させる必要はありません。

[No.3-33] カメラのローカルストレージへの記録を用いたアラーム記録機能において、SNC-P5 / RZ25 の外部ストレージでは、正常に動作しない問題

カメラのローカルストレージには、カメラ内蔵メモリーによる内部ストレージと、メモリーカードなどによる外部ストレージがありますが、SNC-P5 / RZ25 の外部ストレージでは、カメラのローカルストレージへの記録を用いたアラーム記録機能は、正常に動作しません。

これらのカメラでは、内部ストレージをお使い下さい。

[No.3-31] Cleanup で削除されない音声データができる問題

音声データを記録中に RealShot Manager を終了させたりすると、その記録データに関して、Cleanup によってデータファイルは削除されるものの、検索画面のリスト上には、データのエントリーが残る場合があります。

RealShot Manager の終了は、音声データの記録終了後、10秒以上待ってから行ってください。

なお、このエントリーは、検索画面にて手動で削除することができます。

[No.3-30] SNC-RX550 / CS50 / RZ50 の I/O ボックスを作成する場合の制限と問題

SNC-RX550 / CS50 / RZ50 の I/O ボックスを作成する場合、動体／不動体検知の設定に関して、以下の制限と問題があります。

- カメラが持つ『現在位置』モードのデータは、RealShot Manager が持つ初期値で上書きされます。
- リモートサーバー上に I/O ボックスを作成した場合、『プリセット位置』モードのデータに関して、RealShot Manager で確認できるデータと、カメラが持つデータが一致なくなることがあります。

後者の問題を回避するためには、下記の手順で、リモートサーバー上に I/O ボックスを作成してください。

1. 設定管理画面を開き、リモートサーバー上に I/O ボックスを作成する。
2. I/O の「有効」チェックボックスをチェックする。すでにチェックされているならば、一旦はずし、再度チェックする。
3. 動体／不動体検知に関する設定をせずに、設定管理画面を閉じる。

すでに I/O ボックスを作成し、各種設定を行っている場合は 2 番から行ってください。ただし、この場合、いくつかの『プリセット位置』モードのデータが初期化されている可能性がありますので、一度、ご確認ください。

[No.3-29] 『動体検知（カメラ MD）』の設定画面で、『No Camera』になる場合がある

Controller から Standard へ接続している場合に、『動体検知（カメラ MD）』の設定画面にて、画像の表示部分に、『No Camera』と表示される場合があります。

この場合には、設定管理画面を一度閉じて、開きなおしてください。

[No.3-28] 設定済みの『動体検知（アプリ）』の設定名が表示されない場合がある

Controller から Standard へ接続している場合に、設定管理画面にて『動体検知（アプリ）』が設定済みのカメラの設定を開いてみても、その設定済みデータが表示されない場合があります。

この場合は、以下の手順を行ってください。

1. 該当カメラを選択する。
2. 選択した状態のまま、設定管理画面を閉じる。
3. 設定管理画面を開く。

[No.3-10] SNC-P5 に G.711 の音声ファイルを出力する場合の問題

SNC-P5 の Audio Out に G.711（6 4 k b p s）の音声ファイルを出力すると、ネットワークの帯域に十分に余裕がある状況でも、音声途切れる場合があります。

この場合には、G.726 の音声ファイルを使用してください。

[No.3-9] 音声ツリーに一度に複数のカメラを登録した場合の問題

『設定管理』画面にて、カメラツリー下のカメラを複数選択して、ドラッグ&ドロップ操作により一度に音声ツリー下にコピーすると、2 台目以降のカメラ音声の『記録先』が空欄で登録されます。

この場合には、音声ツリー下にコピーした 2 台目以降のカメラ 1 つ 1 つに対し、対応する『記録先』にドラッグ&ドロップ操作でコピーしてください。

[No.3-7] バージョンアップインストール直後のアーカイブサービスの起動について

RealShot Manager のバージョンアップインストール後は OS の再起動が要求されますが、OS 起動直後、以下のメッセージが表示されてアーカイブサービスがうまく起動しない場合があります。



この場合には、『コントロールパネル』→『管理ツール』→『サービス』を選択して表示される『サービス』画面にて、"Sony RealShot Manager Archiving Service"が正常に登録されているかどうか確認してください。正常に登録されていない場合には、『スタート』→『ファイル名を指定して実行』画面から

`<RealShot_Manager_Install_Folder>%ArchivingORB%Archiving
ORBService.exe %service`

と入力し、手動でアーカイブサービスをサービスに追加してください。

正常に登録されている場合には、"Sony RealShot Manager Archiving Service"が開始されているかどうか確認してください。開始されていない場合には、" "Sony RealShot Manager Archiving Service"の行を右クリックし、『開始』ボタンを押してください。

なお、その後は OS を起動するたびに、アーカイブサービスも自動起動されるようになります。

[No.3-6] リモートカメラの『記録先』の追加・変更を行う場合

リモートカメラの『記録先』の追加・変更を行う場合には『設定』画面から行ってください。『カメラ設定』画面から行くと、追加・変更が反映されません。

[No.3-4] リモートカメラの SNC-RZ25/P5 のプリセットポジション名に使用できる文字について

SNC-RZ25 および SNC-P5 がローカルカメラの場合にはプリセットポジション名にマルチバイト文字が使用できますが、リモートカメラの場合には英数字以外の文字を使用することはできません。

[No.3-3] リモート音声ボックスにリモートカメラをアサインする場合

RSM Controller もしくは Viewer の GUI から、リモートサーバーの音声ボックスにリモートカメラをアサインするとき、該当カメラをモニター画面に表示させている場合には、一旦該当カメラのモニター画面を閉じてからアサインしてください。

[No.3-1] リモートカメラに対するカメラプロパティ画面のタブについて

RSM Controller もしくは Viewer の GUI からリモートカメラのプロパティ画面を開いたときに、タブのいくつかが表示されない場合があります。この場合は、表示されているタブを一旦選択することによって、すべてのタブが表示されるようになります。

[No.2-15] 解像度の低いディスプレイで Web Gateway を使用するときの問題

800 * 600 以下の解像度のディスプレイを使用して、RSM Web Gateway でカレンダーを表示させた場合、カレンダーの上下が表示されません。

RSM Web Gateway を使用する場合には、1024 * 768 以上の解像度を持ったディスプレイを使用してください。

[No.2-11] ダイナミックマスキング設定の Preview

クライアントからダイナミックマスキングの設定を行った場合には、『適用』ボタンを押してから Preview を行ってください。

[No.2-10] モニターウィンドウサイズの変更方法について

編集モードにてモニターウィンドウプロパティを開き、モニターウィンドウのサイズを入力すると値がゼロにリセットされ保存されません。

モニターウィンドウのサイズを変更する場合は、モニターウィンドウを選択しマウス操作にてウィンドウサイズを変更してください。



モニターウィンドウのプロパティ

[No.2-9] リモートサーバー名を変更した時のカメラ名表示について

Server-Client 型構成において、クライアントでサーバーカメラをモニタリングしている時のカメラ名は、"カメラ名@サーバー名"という形式で表示されます。リモートサーバー名が変更された場合、クライアントのカメラ名表示のうちサーバー名が更新されません。

この場合、カメラを選択し直すと変更後のサーバー名で表示されます。

[No.2-8] Web クライアントにログインした状態で Windows からログオフした場合の問題について

Web クライアントにログインした状態で Windows からログオフした場合は、現在のログインユーザー表示リストに該当ユーザーが削除されずに残ってしまいます。



[No.2-6] コントローラーGUI からの System IO-Box input-pin の state 情報取得について

Server-Client 型構成において、System IO-Box の state を変更してもコントローラーGUI から Input-pin の正しい state を確認することはできませんが、本来、System IO-Box の機能は、3rd party が API を使用して作成した application から使われる機能であり、API 経由では正しい state 情報を取得することができます。

[No.2-5] Action Editor からリモートサーバーの IO-Box Input Pin を選択する時の注意

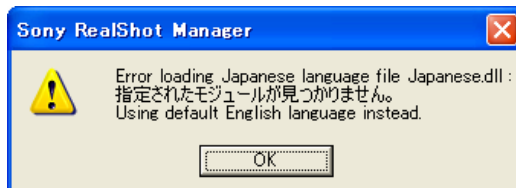
Server-Client 型構成において、コントローラーの Action Editor 画面からリモートサーバーの Input pin を選択する場合、IO Box の下に直接入力端子がリストされません。カメラアイコンをクリックすることにより入力端子を選択することができます。

[No.2-4] 複数カメラ表示に関する問題について

モニターウィンドウから複数カメラの表示操作を行う場合、カメラの選択画面で削除したカメラが名前のないヌルカメラとしてリストされる場合があります。ただし動作上は問題ありません。

[No.2-3] インストール時の言語選択で『English』を選択した場合の問題について

英語版以外の Windows OS 上で初めて RealShot Manager をインストールする時に、インストーラーの言語選択で『English』を選択しても、RealShot Manager の内部で言語設定が"Default User Language"に設定されるため、初回起動時に以下のメッセージが表示されてしまいます。



この場合は OK ボタンをクリックしてソフトウェアを起動後、一般設定の言語設定を"English"に設定後ソフトウェアを再起動してください。

[No.2-2] サーバーの IO-Box を選択して全削除した場合の問題について

Server-Client 型構成において、コントローラー PC からサーバーの IO-Box を選択して全ての IO Pin を削除した場合、サーバーに対して削除処理依頼中であることを表す通信ダイアログが表示され続けてしまうことがあります。

この場合、System-IO Box 以外の IO Box が削除されていることを確認後キャンセルボタンを押してください。

また、System IO-Box を削除することはできませんので、登録した IO Box を削除する場合は個々に IO Box を選択してから装置の削除ボタンを押してください。

[No.2-1] ツールバーのタイトル表示/非表示操作を行った時にタイトルが表示されない場合がある

ツールバーのタイトル表示／非表示操作を行った時に、タイトルが表示されないことがあります。タイトルが表示されていない場合は、マウスでツールバーを移動させるとタイトルが表示されます。

3-2 解決された限定事項

3-2-1 v3.3.0 で解決された限定事項

[No.2-14] I/O ピンにアサインされたカメラについて

以下の手順で I/O ピンにカメラのアサインをした後、RealShot Manager を終了すると、該当 I/O ピンに対するカメラのアサイン情報が保存されません。

1. 設定管理ウィンドウを開く。
2. I/O ボックスにカメラを登録する。
3. 有効にした I/O ピンと関連付けたいカメラをアサインする。
4. 設定管理ウィンドウを閉じる。
5. RealShot Manager を終了する。

I/O ピンへのカメラをアサインした後、RealShot Manager を終了する場合には、下記の手順に従ってください。

1. 設定管理ウィンドウを開く。
2. I/O ボックスにカメラを登録する。
3. 有効にした I/O ピンと関連付けたいカメラをアサインする。
4. 設定管理ウィンドウを閉じる。
5. 設定管理ウィンドウを開く。
6. 該当 I/O ピンの設定ウィンドウの『有効』チェックボックスを off/on する。
7. 設定管理ウィンドウを閉じる。
8. RealShot Manager を終了する。

なお、カメラのアサイン情報が保存されていない場合には、該当カメラを使用したアラーム記録のスケジュール設定時に、対応する I/O ピンが表示されませんので、再度設定管理ウィンドウから I/O ピンとカメラの関連付けを行ってください。再度 I/O ピンにカメラをアサインした後は、I/O ピンに対するカメラのアサイン情報は保存されます。

3-2-2 v3.2.1 で解決された限定事項

[No.3-32] カメラのローカルストレージへの記録を用いたアラーム記録機能する場合のカメラ登録方法

カメラのローカルストレージへの記録を用いたアラーム記録機能するために、その機能を持ったカメラを登録する場合は、カメラの登録後、RealShot Manager を再起動させてください。再起動させないと、このアラーム記録機能が正常に動作しない場合があります。

3-2-3 v3.2.0 で解決された限定事項

[No.3-14] カメラツアーの『移動時間』に指定できる上限値の問題

カメラツアー設定画面の『停止時間』および『移動時間』は 82,400,000 を超える値を入力した場合のみ、指定できる上限値は 82,400,000 である旨のエラーメッセージが表示されますが、実際に有効になる値の上限値は 32,767 までになります。

[No.3-13] カメラツアーの『移動時間』に 32,768 から 82,400,000 の間の値を指定した場合の問題

カメラツアー設定画面の『停止時間』および『移動時間』に 32,768 から 82,400,000 の間の値を指定した場合には、入力時にはエラーとはなりませんが、RealShot Manager 終了時にデータベースに書き込みがエラーとなり、保存できません。『停止時間』および『移動時間』に指定できる上限値は 32,767 までとなります。

[No.3-12] SNC-RZ25 のプリセットポジション情報に関する問題

SNC-RZ25 に対してプリセットポジションを設定している場合、RealShot Manager の起動直後はプリセットツールバーにプリセットポジション情報が表示されません。この場合には、SNC-RZ25 に対し Pan&Tilt ツールバーから Pan&Tilt を実行する、もしくは、ダイナミック PTZ 機能を使うことにより、少しでも Pan、Tilt または Zoom を実行すると、プリセットポジション情報が表示されるようになります。

[No.3-11] リモートカメラの各プリセットポジションに対する Motion Detection 設定の問題

Server/Client 構成において、Client 側からリモートカメラに設定されている各プリセットポジションに対して行った Motion Detection の設定が保存されません。

Server/Client 構成において、カメラの各プリセットポジションに対して Motion Detection を設定する場合には、Server 側で設定を行ってください。

[No.3-8] SNT-V304/V704 に繋がっているカメラをリモートカメラとして登録する場合

SNT-V304/V704 に繋がっているカメラをリモートカメラとして登録する場合、どの Input 番号を指定しても必ず Input1 が選択された状態で登録されます。その場合には、『設定管理』画面にて登録後、引き続き同じ画面で Input 番号を正しいものを選択して"Apply"ボタンを押してください。

なお、どの Input が選択されているかについては、モニター画面上に選択されている Input 番号が表示されますので、モニター画面からも確認することができます。

[No.3-5] 『記録先』がファイルシステムフルで記録ができない場合

『記録先』がファイルシステムフルなどにより物理的に記録ができない場合でも、モニター画面には"MAN REC"など、"REC"の表示が出ています。この場合には、メイン GUI のステータス欄およびエラーログウィンドウに"Can't flush xxx bytes (No space left on device)"と表示されていますので、常にステータス欄およびエラーログウィンドウの表示に注意してください。

[No.3-2] no stream mode における Dynamic Masking の問題

RealShot Manager ではデフォルトでカメラの設定は stream mode になっていますが、no stream mode で使用した場合、Dynamic Masking が有効になりません。

Dynamic Masking を使用する場合には、stream mode でお使いください。

※stream mode … カメラ側から連続的に画像を送ってくるモード。カメラの最大転送レートを設定することができます。

※no stream mode … カメラに対し、1 枚 1 枚画像の送付を要求するモード。最大でも約 15fps になります。

→本件は注意事項「ダイナミックマスキングが設定されている場合のストリームモードについて」に記載されています。

[No.2-13] カメラツアー設定について

カメラのツアー設定を行う場合には、設定管理ウィンドウから設定せずに、Tours ツールバーから設定してください。設定管理ウィンドウから行った設定は、Tours ツールバーのツアーの設定ボタンを押すまで Tours ツールバーには反映されません。

[No.2-12] IO ピンに割り当てられたカメラに対する編集

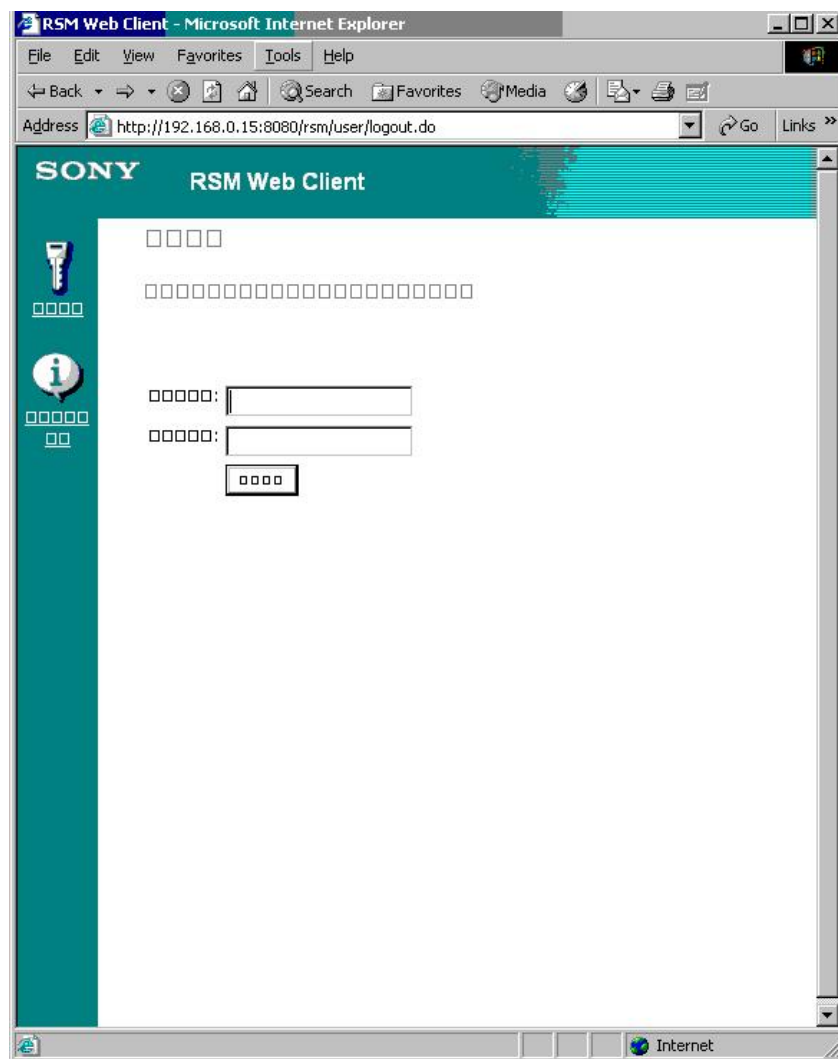
『設定管理』ウィンドウにて IO ピンに割り当てられたカメラの設定を変更する場合は、『設定管理』ウィンドウのカメラツリーの下で該当カメラの設定を直接変更してください。IO ピンに割り当てられたカメラを選択し、『設定管理』ウィンドウ上部の『デバイスの編集』ボタンを押しても、カメラの設定は変更できません。

[No.2-7] 日本語版 Windows で動作している RSM Web Gateway に、英語版 Windows PC から接続した場合の問題

日本語版 Windows PC で RSM Web Gateway を使用している環境において、英語版 Windows PC から Web ブラウザを起動し RSM Web Gateway に接続した場合、ログイン画面が以下のように文字化けして表示されます。

この場合は、上のテキストボックスにユーザー名を、下のテキストボックスにパスワードを入力してシステムにログインして下さい。ログイン後の画面は正常に表示されます。

この現象は、RSM Web Gateway と Web クライアントの OS の言語環境が異なる場合にのみ発生します。



→本件は注意事項「日本語版Windows PCで動作しているRSM Web Gateway への接続について」に記載しました。

3-2-4 v3.1.3 で解決された限定事項

- [No.3-15] **SNC-RZ25 のカメラツアーにおいて、設定した『移動時間』とは著しく異なる移動動作を行うことがある**

カメラツアーは各ポジションに対し『停止時間』および『移動時間』の組み合わせを定義することにより実現していますが、SNC-RZ25 を使用した場合、指定した『移動時間』とは著しく異なる移動動作を行う場合があります。

3-2-5 v3.1.2 で解決された限定事項

- [No.3-27] **リモートカメラを含むレイアウトを切り替えるとクライアント側の RealShot Manager が異常終了することがある**

リモートカメラのモニター画面を含むレイアウトから他のレイアウトに切り替える際にリモートサーバーとの接続が切れると、クライアント側の RealShot Manager が異常終了することがあります。

3-2-6 v3.1.1 で解決された限定事項

- [No.3-26] **Audio Output bin に割り当てた出力制御ボタンから音声が出力されないことがある**

Audio Output bin に割り当てた出力制御ボタンを押下すると、あらかじめ用意した音声データがカメラの Audio Out から出力されるようになっていますが、ときどき出力されないことがあります。

- [No.3-25] **IO ボックスに残った『Unknown カメラ』削除で RealShot Manager が異常終了**

『設定管理』画面にて、登録されている IO ボックスに対してカメラツリーからカメラを割り当てた後、該当カメラをカメラツリーから削除すると、IO ボックスに割り当てられていたカメラは『Unknown カメラ』になります。その後、この『Unknown カメラ』をドラッグ & ドロップ操作で削除すると RealShot Manager が異常終了します。

[No.3-24] スケジュール Cleanup job にて『残容量をチェックする』モードが正しく動作しない

スケジュールで登録された Cleanup job は、『残容量をチェックする』チェックボックスにチェックを入れた場合、本来指定された記録先の『残容量』をチェックして、条件が合致した場合のみ Cleanup job が実行されるべきですが、条件判定を行わずに必ず Cleanup job が実行されます。

[No.3-23] 2nd モニターにホットスポット画面表示時にアクションの種類を指定していないアクションを実行すると RealShot Manager が異常終了する

2nd モニターにホットスポット画面を出力する設定にしている場合、アクションの種類を指定せずにアクションを定義し、アクションを実行すると、RealShot Manager が異常終了します。

[No.3-22] SNC-P5 への Alarm 出力が作動しない

SNC-P5 の Output bin を有効にしても、Output bin にアラームが出力されません。

[No.3-21] カメラ割り当て画面にてリモートカメラのアイコンが記録先のアイコンで表示される

カメラ割り当て画面にてリモートカメラのアイコンが表示されるところが、記録先のアイコンが表示されてしまいます。

3-2-7 v.3.1.0 で解決された限定事項

[No.3-20] SNC-RZ30 のプリセットポジション名に英数字以外が入力できてしまう

SNC-RZ30 はプリセットポジション名に使える文字は英数字のみになりますが、RealShot Manager からは英数字以外の文字が入力できてしまいます。その結果、設定したプリセットポジション名が文字化けします。

[No.3-19] SNC-P1/DF40/DF70/P5/RZ25 に対するスケジュール記録、アラーム記録の問題

SNC-P1/DF40/DF70/P5/RZ25 に対し、アラーム記録およびスケジュール記録のカメラ設定がモニタリング時のカメラ設定と異なる場合、記録開始時と記録終了時に最大約 20 秒間画像の更新が停止します。

→本件は注意事項「**SNC-P1 / P5 / DF40 / DF70 / RZ25 に対するアラーム記録、スケジュール記録時とモニタリング時のカメラ設定が異なる場合について**」に記載しました。

[No.3-18] リモートカメラのモニター画面へのアサインの問題

リモートカメラをモニターにアサインしている場合、ソフトウェアを再起動するとリモートカメラのアサインがモニターからはずれて、"NO CAMERA"と表示される場合があります。

[No.3-17] 『設定』画面における IP アドレス表示の問題

『設定』画面で現在選択しているデバイスと同じタイプの別デバイスを選択した場合、IP アドレス欄は前の IP アドレスがそのまま表示されます。

[No.3-16] 複数リモートサーバーに接続したクライアント GUI の問題

複数のリモートサーバーに接続しているクライアント GUI の『設定』画面および『スケジュール設定』画面が開けない場合があります。

[No.2-19] リモートカメラに対する Activity Detection 設定

リモートカメラに対して Activity Detection を設定した場合は、設定後一旦『設定管理』画面を閉じてください。

[No.2-18] 『設定管理』ウィンドウ内でのカメラ名の変更について

『設定管理』ウィンドウにてカメラ名だけを変更した場合は、設定管理』ウィンドウ左側のデバイスツリーのいずれかをクリックしてください。保存を促すメッセージが出てきますので、『はい』を選択してください。

[No.2-17] Dynamic Masking の"PTZ 動作中は描画を停止する"チェックボックスについて

Server-Client 型構成において、サーバーカメラの Dynamic Masking が1つも設定されていない状態では、"PTZ 動作中は描画を停止する"チェックボックスを選択しても意味がないため、本来は選択できないようにグレースアウトしているべきですが、グレースアウトされていません。この状態で上記チェックボックスを選択しても、実際には有効にはなりません。なお、Dynamic Masking を1つでも設定している場合は上記チェックボックスでの選択は有効になります。

[No.2-16] ユーザー管理の Exit Application 権限について

ユーザー管理の Exit Application 権限を無効にして、かつ、プロテクト権限を有効にした状態から Full Screen ボタンを押した場合、元の画面に戻れなくなります。

この状態からの復旧方法としては、ユーザー管理権限をもつユーザーでログインし、該当ユーザーの Exit Application 権限を設定してください。

Appendix

Appendix I. Version 1 からの主な特徴

- 強力な画面のカスタマイズ機能
- 多彩な記録モード
- カメラの最大接続台数
- 最大受信容量：200Mbps
 - Giga-bit Ethernet 使用で、VGA サイズの映像を 30fps で 32 台同時記録した時
- 対応カメラ：Sony SNC-RZ30/SNC-VL10/SNT-V304/SNC-Z20/SNC-CS3
- 対応機能
 - Pan/Tilt/Zoom 機能の制御
 - 16 個のプリセットポジション（12 個のダイレクトボタン）
 - デジタルズーム
 - 画像の回転、画像サイズの変更、画質の制御
 - スケジュール設定による記録（分単位で設定）
 - アラーム記録（プリアラーム/ポストアラーム記録に対応）
 - 記録映像の再生（コマ単位での再生から、100 倍速再生まで）
 - 記録同時再生（記録中の映像を追いかけて再生）
 - アクション機能（画面上のボタンによるレイアウト変更、カメラ表示の変更）
 - ユーザー権限の設定
 - カメラのシーケンシャル切り替え
 - ログ記録
 - リレー出力制御
- 記録先フォルダーの複数指定
- 自動削除機能の機能拡張
- SNC-RZ30/SNC-Z20/SNC-CS3 カメラの Activity Detection 機能に対応したアラーム記録
- アラーム入力に対するアクション機能の機能拡張
- カメラ共有機能
- 「カメラ表示に戻す」ボタンの追加

Appendix II. Version 2.0 での追加機能

- カメラ共有機能
- ホットスポット画面の別モニターへの表示
- コントローラーモジュールのサポート(IMZ-RS200C のサポート)
- ビューワーモジュールのサポート(IMZ-RS200V のサポート)
- RSM API のサポート
- 柔軟なカメラライセンスの拡張性
- プライベートマスキング機能
- マウスによる簡便な Pan/Tilt/Zoom 操作のサポート
- BARIX 社製オーディオボックス「Instreamer」および「Annunicom」のサポート
- USB ジョイスティックのサポート
- BARIX 社製 PIO ボックス「BARIONET」のサポート
- ツアー機能のサポート
- ディスクの使用量制御機能のサポート
- Server/Client 構成のサポート

Appendix III. Version 2.1 での追加機能

- API 経由による Client でのアラーム受信
- API 経由による Client から Server へのアラーム送信
- API 経由による RSM Server 記録ファイルの取得
- 記録ファイルの AVI ファイルへのエクスポート対応

Appendix IV. Version 2.2 での追加機能

- SNT-V501、SNT-V504 をサポート
- モニタリングウィンドウへのアラーム表示
- ログインユーザーの履歴の記録
- 音声データの再生
- アラーム通知メールへのイメージ添付

Appendix V. Version 2.3 での追加機能

- SNC-P1 (JPEG のみ)、SNC-DF40 (アラーム動作を除く) をサポート
- レイアウトに関するツアー機能
- アラームをトリガーにした SNC-P1 への Audio file Output 機能
- RealShot Manager からアラームメール通知機能の起動が可能
- 初期インストールから 30 日間フル機能が使用できるトライアルモードの提供
- Web ブラウザからのアクセス対応 (RSM Web Gateway)
- Image Compression Server